

中露天然ガス PL を巡る動向について

中国の情報によると、10月8日、ロシアのガスプロム（Gazprom）は、西シベリアから中国への天然ガスパイプライン（アルタイ PL あるいは西線と呼ぶ）の工事を、天然ガス価格交渉の終結を待たずに、来年から着工することを正式に決定したという。

計画によれば、アルタイ PL の総延長は 2,700km、投資額は 50 億ドルであり、パイプラインは 2011 年に完成し、中国の新疆で既存パイプラインと接続して、ロシアから年間 300～400 億 m³ の天然ガスを輸送することになっている。

他方、ロシアの報道によると、現在、中露間では天然ガス価格交渉は難航している。中国石油（PetroChina）はガスプロムから提案された価格（125 ドル/1,000m³）を、国内市場が受け入れないという理由で強く拒否し、より安い値段を要求している。

そもそも、中国のロシア産天然ガスの輸入、中露天然ガスパイプラインの建設は、中国が首脳会談でロシアに強く要請し、中国のエネルギー戦略の中でも重要な位置を与えられてきた。中国が高姿勢のロシアとの間で 10 年以上にわたって交渉を続けた後、今なぜロシアに対して強い拒否の態度を示したか、その理由は以下のような事情にあると考えられる。

まず、本年7月、中国とトルクメニスタンとの間で 2009 年から 90 ドル/1,000m³ の価格による年間 300 億 m³ の天然ガス売買契約が調印された。中国はトルクメニスタン以外の中央アジア諸国やミャンマーなどからの天然ガス輸入交渉や、イラン、オーストラリアなどからの LNG 導入交渉も進めている。次に、中国側は需要地に近い東シベリアあるいはサハリンから東北地域への PL（東線と呼ぶ）に最も大きな期待をかけ、アルタイ PL を優先的に建設しようとするガスプロムの計画に対してかなり不満を持っている。

さらに、最近、中国では国内で大・中規模のガス田が次々に発見され、他方では国内の天然ガス価格やインフラ整備の遅れなどの制約から天然ガス需要の伸びが予測を下回っている。また、アルタイ PL を通ずるガス輸入のために、新疆から東南沿海地域までの長距離 PL を建設しなければならないので、莫大の追加投資が必要となる。加えて、ロシアと旧ソ連諸国間の天然ガス供給を巡る問題も、中国がロシアを警戒する理由の 1 つとして挙げられるであろう。

（首席研究員 張 継偉）